

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ10号

2017年12月



オオアオイトトンボ

## 目次

- 1. 11月活動報告 . . . . . 2
- 2. ムシプロだより . . . . . 3
- 3. 自然の楽しみ方（秋） . . . . . 5
- 4. 事務局より . . . . . 6
- 今月の表紙 . . . . . 6

## 1. 11月25日（土）の活動報告

11月25日（土）の活動の報告です。  
スタッフ5人を含めて17名が参加しました。  
活動内容は、コナラ広場での落ち葉さらいと冬の生き物観察、さらに昼食用のお米をエコストーブとお釜を使っての自炊でした。朝は冷え込みが厳しくビオトープに氷が張りましたが、日中は気温が上がり汗ばむほどになりました。葉っぱが落ちて明るくなったコナラ広場は、とても静かで昼食を食べながら冬の訪れを感じました。



### ■ 落ち葉さらいと腐葉土づくり

校舎の裏山を登ってコナラ広場に行き、落ち葉さらいをしました。集めた落ち葉を袋に詰めてくまの木まで持ち帰りカブトムシ・カナブンの産卵床にしました。



### ■ エコストーブで昼食づくり

初めて使うエコストーブとお釜でお米が上手く炊けるか緊張しましたが、釜のふたを開けて炊きあがりを見たとき歓声が上がりました。



### ■ 冬の生き物観察

冬の生き物観察では、冬越しのムシ（オサムシ、カブトムシの幼虫、ゴマダラチョウの幼虫など）を見つけました。



## 2. ムシプロだより

### 高橋 信行さん、昊佑さんの近況

この3年で、昆虫にまつわる我が家の行動パターンが確立してきました。基本的には近場でクワガタ採集なのですが、イベントとして7月には檜枝岐村でオオクワガタの灯火採集、8月は福島県でアサギマダラの観察会&マーキング、11月がオオムラサキの幼虫探しが定番となっています。



くまの木のムシプロに参加するようになってから、息子がクワガタ以外のムシたちにも興味を持ち始めました。クワガタ採集に行ったのにアリジゴクの巣を見つけ夢中になったり、灯火採集で飛んできたオオミズアオを観察したりなどなど…。

そのなかでも、今年は水棲昆虫に思いっきりはまっています。昨年のムシプロで捕まえたクロゲンゴロウを持ち帰り飼育していますが、「他の水棲昆虫も飼育したい」と言うので、何を飼育したいのかを聞くと「タガメとタイコウチとコオイムシ」との回答。ミズカマキリを学校の池で捕まえてき



て飼育していたので、これ以上飼育できるのか不安もありましたが、私もタガメに出会いたい気持ちが強かったので、生息していそうな所に目星を付けて何度も息子と捜索に出かけました。ガサガサは、楽しくワクワクするのですがなかなかタガメには出会えませんでした。その日もほとんど諦めかけていたのですが、最後に立ち寄った場所でその瞬間がやってきました。その場所は程よく茂みがあり、水もきれいでもほとんど流れはありません。なにかいそうな雰囲気です。息子がガサガサを開始してしばらくすると、タイコウチを捕まえることができました。

その後ゲンゴロウの仲間などを捕まえて、更に息子はガサガサ続けます。その時「いた！タガメいた！」との声。近寄ってみると正真正銘のタガメでした。息子はタガメの成体を見るのは初めてでとても嬉しそうですが、どのような場所に生息して、なぜ個体数が少なくなってしまったのかくまの木の活動を考える貴重な経験になりました。この時のタガメは自宅に持ち帰り、今も水槽のなかで暮らしております。

後日、タガメを捕まえた場所を息子と訪れ、息子がタガメの卵塊を見つけました。来年の夏もタガメに出会えることを息子と楽しみにしています。

ちなみに、11月末時点で飼育している水棲昆虫は、タガメ・タイコウチ・コオイムシ・クロゲンゴロウ・シマゲンゴロウ・コシマゲンゴロウになります。タガメ・タイコウチ・コオイムシが食べた残りをゲンゴロウ達が始末してくれています。

※安心してください、別々の水槽で飼育していますよ。



アサギマダラ 観察会&マーキング



マーキングした個体  
(昨年は長野県で再捕獲  
されました)



タガメの卵塊

(写真・文 高橋 信行)

## 晩秋のコナラ広場



晩秋のコナラ広場を切り取ってみました。今年も倒木にキノコ（ヒラタケ、クリタケの仲間）が発生していました。左の写真は落ち葉の上に仰向けになって撮りました。木が画面の四方から中央に向かって伸びています。



### 3. 自然の楽しみ方（晩秋・初冬）

日本では約5千種の蛾が確認されていてとても多様性に富んでいます。そんな蛾の魅力を高野さんが解説します。今回は、「アケビコノハ」です。

#### たかのなおこのファイ蛾屋広場①

アケビコノハの蛹と羽化直後の様子です。

蛹は初めて見ました。地面に転がっていたというのに驚きました。地表で蛹になる蛾は珍しくありませんが、だいたい地表の落ち葉の隙間だったり、表土に浅く潜ることが多いと思います。

アケビコノハ、実にいい蛾ですよ～。幼虫でも成虫でも見つけると嬉しいですよ。触りたくなっちゃいますよね。

成虫の**前翅**は**枯葉そっくり**で本当に見事な擬態に感心します。また、**後翅**は、鮮やかな**オレンジ色**なのです、そうするとつい**後翅のオレンジ**も見たくくなりますよね。はねを開かせようとちょっかいを出しますよね。ところがアケビコノハはパッと開いて後翅を見せてくれずに、**擬死する**んですよ。はらはらと落ちてしばらく地面に横たわっています。前翅の枯葉擬態にすごく自信があるのでしょうね。

本当に素晴らしい蛾です。

(写真・熊谷 義昭／文・高野 名保子)

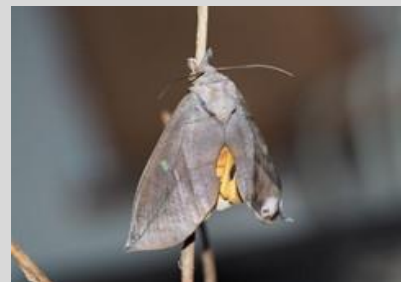
#### 撮影した熊谷義昭さんのコメント

11月1日マイフィールドで地面に蛾の蛹を見つけました。大きさは35mm弱です。

触るとぴくぴく動く元気な蛹だったので何になるか観察しようと持ち帰りました。

19:30頃ふと見ると蛹を置いた場所から少し移動していました。おかしいと思い飼育ケースのふたを開けてみるとすでに羽化していました。

翌日、採集場所に戻しました。木に止ませようとしたのですが地面にポトリと落ちました。



前翅の様子が枯葉そっくり、隙間から後翅のオレンジ色が見える



蛹



羽化の様子、後翅がオレンジ色



地面に落ちて枯葉に溶け込んでいる

#### 4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2017年12月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

#### 今月の表紙 オオアオイトトンボ



オオアオイトトンボは、秋から初冬に出現するトンボだ。特徴は、体の色が**金属光沢（金緑色）**なのと**翅を半開き**にして止まることだ。

撮影した時は、朝から陽射しが降り注ぎ、ススキが輝いていた。道を歩いていると私の右側からヒラヒラと現れて左側の枝に止まった。翅を半開きにして日光浴を始めたので暫く一緒に秋の陽射しを楽しんだ。髪の毛が黒くて熱をよく吸収するからだろうか、私の頭にアシナガバチ、アブ、アキアカネが止まりに来た（笑）。



(写真・文 西野 孝法)